

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎ 049-227-3001 (FAX兼用) ホームページ <https://hatoyama.info/>

体験型「里山学」研修プログラム

熊井の森 SATOYAMA 自然学校

8月15日(日)

第3回公開講座 「里山と植生」 講師 中村幸人氏 東京農大名誉教授 参加費 無料

里地・里山の保全活用と持続可能な地域コミュニティづくりを目指して
「熊井の森」の特徴を知り、実践的な里山保全のやり方を学びましょう



熊井の森

8月15日(日)

午前&午後

参加費
無料

中村幸人先生と学ぶ
「里山学」研修プログラム



東京農大名誉教授
「森びとプロジェクト」代表

午前◎企画 熊井の森を歩こう 里山の植生学習会

指導 中村幸人氏

集合/午前9時
終了/午前11時半

集合場所/熊井の森・立野谷
の駐車場

■カーナビでは「日本カントリークラブ」または「鳩山町 妙光寺(鳩山町熊井598)」で検索し、県道41号線沿いにある「上熊井集落センター」に立ち寄るか、主催者携帯にお電話ください。集合場所にご案内します。

携帯090-2457-8513(愛場)

午後◎企画 講演会「里山と植生」

講師 中村幸人氏

開演/午後1時
終了/午後3時

講演会場/泉井
交流体験館
(鳩山町大字泉井524-1)

■カーナビでは「亀井小学校」で検索。施設敷地への入り口がわからなければお電話ください。
交流体験館 ☎049-298-8899



【講師プロフィール】

なかむら・ゆきと 1952年福島県生まれ。東京農業大学名誉教授。森林社会学。『みどりの環境デザイン』(東京農大出版会)の共同著述、新刊『植生から見る里山 その保全と再生のために』のほか、多数の学術論文・著書がある。(社)日本植木協会主催の環境アドバイザー研修制度を立ち上げ、野外調査を基本とした多数の指導経験を持つ。

「森びとプロジェクト」代表。同プロジェクトは「山と心に木を植える」を合言葉に森づくりを通じ、生きものの命と自然環境を大切にすることを育むことに努める非営利の任意団体です。顧問は宮脇昭(横浜国大名誉教授)。現在は、栃木県日光市足尾町旧松木村跡地の森、岩手県八幡平市旧松尾鉾山跡地の森、そして福島県南相馬市の森の防潮堤、仙台市荒浜と名取市の森の防潮堤を中心に主な活動を行っています。



足尾の煙害に1本だけ生き延びた中倉山の「孤高のブナ」

★人数把握のため、参加希望の方は事前にご一報いただければ助かります。集合場所をお間違えなく。

(公財) SOMP O環境財団助成事業 後援・鳩山町

主催 NPO法人はとやま環境フォーラム

問合せ・参加申込先 電話 049-227-3001(代表)
携帯 090-2457-8513(愛場)
メール kawasemi3001@gmail.com

活動報告

■第2回熊井の森SATOYAMA自然学校公開講座を開校

7月18日(日)、「熊井の森SATOYAMA自然学校 第2回公開講座」を開校しました。午前中は、講師の上田恵介氏がガイドする「生きもの観察会」、午後には「野鳥と里山」講演会。盛りだくさんの1日でした。当日の観察会&講演会の様子を、白田真希さん(三芳町在住)がfacebookにアップしておられましたので、ご本人の了解のもと一部併録させていただきます。感謝。



※

朝8時半に現地近くに集合。朝から強い日差し。主催者からの挨拶や上田先生の紹介のあと、各自の車、あるいは相乗りして現地へ。チャリで行った私(チャリで来ているのは私だけだった……地元の人は車?)は、何と上田先生の車に乗せていただくことができたのだ(ﾟдﾟ)!

早速鳴いてお出迎いの鳥さんはガビチョウ。とても賑やかに鳴く鳥だが、特定外来種(-_-)。ほかにはヒヨドリ、メジロ、そしてウグイス。「ウグイスは夏になっても鳴くんですね」という参加者の問いに、上田先生の答えは「ウグイスは一夫多妻だから」。

ウグイスのオスは1シーズンに5羽くらいのメスと繁殖するんだそう。といっても交尾を済ますとさっさと「さよなら」らしい? なんてやつだ。それで、新しい相手を探して「ホーホケキョ」。それで今頃

もまだ新たな出会いを求めて鳴いている、と。それだけたくさん卵を産むウグイスだが、ウグイスの卵の7~8割はアオダイショウに喰われてしまうんだそう。アオダイショウは10mくらい木登りもできる、鳥類にとって最大の天敵だということだ。

ちなみにウグイスと逆パターンの「一妻多夫」の鳥もいるそうでそれがタマシギ。卵を産むと抱卵や子育てなどその後のことはオスに任せて、自分は次の相手を探しに飛び立ってしまう……んだそう。奔放な女? 生き物の生態ってほんとにおもしろい。

暑い夏の昼間は鳴く鳥も少ない。それでも終わったあとにアオバト、サシバ、ミソゴイが鳴いていたという参加者の声があった。い

いなあ、アオバト。熊井で見てみたい鳥ナンバー1だ。

午後は上田先生のご講演。「里山、鳥たち、生命の多様性」というタイトルで1時間半のお話だったが、これがもう、里山とか鳥とかにとどまらない多岐にわたるお話で、無限に搾取するシステム、拡大再生産を繰り返す資本主義そのものの問題点などにまで展開し、本当に自然環境を守るには? と考えたとき、なぜ環境が破壊されるかという原点に戻れば、そこへ行きつくよなと、納得のお話。

里山と生物の多様性について。生物は1種類では生きていけない。他の生物と相互作用しながら生きている。環境が変化すれば生き物も進化するが、その進化は自分だけではできない。だから「生態系」がないと生きていけないのだが、そのためには池や川、田んぼ、すなわち「里山」が必要であると。水田と里山は一体である、というお話で、なるほど鳩山町はまさにそういう光景があちこちに見られる。

熊井の森のような「谷津田」は生き物の宝庫で、上位種の生き物としてサシバがいるが、サシバは減っているそう。里山から減っている鳥は、サシバ、ミソゴイ、サンコウチョウ、サンショウクイ、コサメビタキなど全て夏鳥。ヨタカは巣をつくらず、伐開地という開けた環境の地面に直接卵を産むのだそうだが、その伐開地が減少しているのだという。アオバズクは森が伐採されたことにより巣穴が不足していること、エサとなる大型昆虫が減少していることにより減ったのだという。

レイチェル・カーソンが「沈黙の春」を出版したのは1962年アメリカだが、沈黙の春は日本の里山にもやってきて、いま、田んぼが静かになってしまった。

かつて坂戸あたりの田んぼにはたくさんのシラサギの群れを見たが(それは私は実家が坂戸なのでよく知っている)、それも消えてしまったのだそう(それは知らなかった。ショックだ)。コサギ、チョウサギなど小型のサギがいなくなりました。

そして田んぼからイナゴもなくなりました。人間は生き物を利用している。生物多様性が何故必要か、それは生態系が健全だからだ。健全な生態系によっていろいろな効果がもたらされている。生態系を乱すと人間の生活にも悪い影響を及ぼす。

そういったお話を伺い、だからこそ多様な生き物の宝庫である里山を守らなければならないのだと改めて納得したのでした。

■ハトムギづくり、やっていますよ〜ん!



はじめ、あれれ、サトウキビでも植わっているのかと。近くに行ったらハトムギが見えるほど大きく育っていました。竹で支えを垂直と平行に作り、お行儀を直してあげました。今日は1時間だけ3人で。いろいろ収穫するまでに作業がありますね。梅雨は開けるし、今度は水のことにも気がかかります。(野田)

▲2mもの長さがあったアオダイショウの抜け殻

▲参加者の皆さんとの記念写真